



さいくさ小児科

病児保育だより

2025年 3月号

～今月のテーマ～

てあしくちびょう

手足口病とは？



手足口病は、その名の通り口の粘膜や手足に現れる水泡性の発疹を伴う感染症で夏風邪の一種です。基本的に予後が良好な病気ですが、まれに急性髄膜炎や急性脳炎を起こすことがあります。手足口病は症状から付けられる病名ですので、似たような症状を伴うウイルスが数種類あり、何度もかかってしまうことがあります。

症状は？

- ・発熱: 37～38 度台の発熱を伴うことが多いです。発熱がないこともあります。
- ・口の発疹、潰瘍: のどや口の中の発疹や小潰瘍を形成し痛みを伴います。
- ・手足やお尻の発疹



ようやく寒さも和らいできているようで、春まではもう一息ですね。感染症についてはインフルエンザの大流行は落ち着きましたが、胃腸炎(嘔吐下痢症)や溶連菌感染症が流行しています。また新型コロナウイルス感染もちらほらみられるようです。引き続き手洗い、うがいなどの感染対策を継続しましょう。今回は昨年5月ごろから大流行した手足口病について一足先に説明します。

治療法や対応は？

特別な治療法はありません。口の痛みがあるため、刺激にならないよう柔らかめで薄味の食べ物をお勧めします。水分不足にならないようにすることが最も重要です。経口補液などで水分を少しずつ頻回に与えて脱水症にならないようにしましょう。

いつまでお休み？

特別な隔離の必要はありませんが、熱がある、食事がとれない場合はお休みになります。熱がなく、水分や食事がとれるようになれば登園可能です。

【2月の病児保育室利用について】

胃腸炎や風邪が多く、インフルエンザや溶連菌感染症のお子さんも利用されました

さいくさ小児科

病児保育室 0956-39-1005

お気軽にお問い合わせください😊